

香取遺産

国宝指定記念 Vol. 48

伊能忠敬関係資料 国宝へ 57年ぶり県内4件目

測量・地図史に高評価 伊能忠敬記念館所蔵2345点

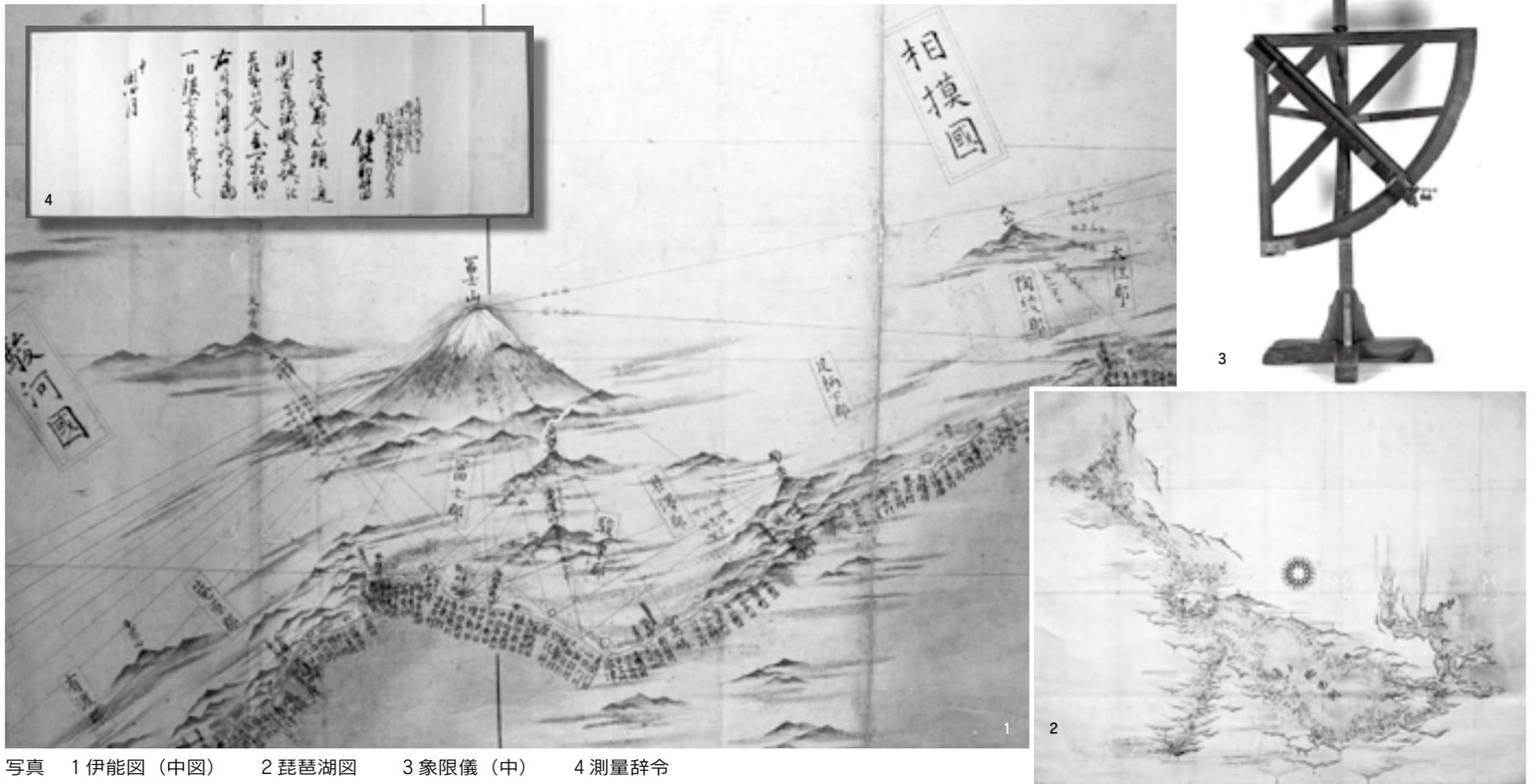


写真 1 伊能図 (中図) 2 琵琶湖図 3 象限儀 (中) 4 測量辞令

県内4つの国宝のうち 2つが香取市内に



今回、国宝に指定された伊能忠敬関係資料のほか、県内ではこれ

- までに、
- ◇「海獣葡萄鏡」(写真)
(香取神宮 1953年指定)
 - ◇「観心本尊抄」
(市川市の法華経寺 1952年指定)
 - ◇「立正安国論」
(市川市の法華経寺 1952年指定)
- が、国宝に指定されています。

東京国立博物館で 一般公開

資料の一部は、4月27日(火)から5月9日(日)まで、東京国立博物館で「特集陳列 平成22年新指定国宝・重要文化財」として一般公開されます。

問い合わせ
東京国立博物館
☎03(5777)8600

資料は、本市を代表する先覚者である伊能忠敬(1745~1818)の業績に関する一括資料2345点です。

▼地図・絵図類787点
彩色された伊能図の他、測量成果を図化した下図、鹿絵図、参考絵図など

▼文書・記録類569点

指定資料の内容

千葉県では、香取神宮所蔵「海獣葡萄鏡」以来57年ぶりの国宝指定で県内4件目となり、このうち2件が香取市に所在することになります。

今後、官報告示により、正式に国宝指定となります。



伊能忠敬とは

伊能忠敬は、江戸時代に日本中を測量し、初めて実測による日本地図を完成させた全国的に著名な人物です。延享2年(1745)に山辺郡小関村(現九十九里町)で生まれ、17歳で佐原村の伊能家の養子となり、酒造業の他にも米穀取り引きなどを営み商

文化庁文化審議会は、3月19日に開催された同審議会で、重要文化財の「伊能忠敬関係資料」を国宝とすることについて、文部科学大臣に答申しました。

国宝とは「国が指定する重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいしない国民の宝」とされます。美術工芸品(絵画・彫刻など)は、全国で864件が指定されていますが、そのうち歴史資料の分野はこれまで2件のみで、今回の指定により全国で3件目となります。

千葉県では、香取神宮所蔵「海獣葡萄鏡」以来57年ぶりの国宝指定で県内4件目となり、このうち2件が香取市に所在することになります。

今後、官報告示により、正式に国宝指定となります。

文化庁は「我が国の測量史・地図史上における極めて高い学術的価値を有するとともに、伊能忠敬の生涯の業績とその人物像を多面的に伝えて歴史に極めて価値が高い」と評価しています。

測量日記や忠敬の測量開始時の幕府辞令などの公文書

▼書状類398点
直筆の書状のほか親族、関係者からの書状

▼典籍類528点
忠敬が学んだ暦学書など

▼器具類63点
測量や天体観測に用いた器具類

指定までの経緯

「伊能忠敬関係資料」は、昭和24年に重要美術品の認定を受けた後、昭和32年2月19日付けで「伊能忠敬遺書並遺品」として重要文化財の指定を受けました。その後、伊能家から本市へ数度にわたり資料が寄贈され、平成21年7月には「伊能忠敬関係資料」として追加指定および員数表記・名称変更などが行われました。

市では、今後、より一層の資料保存に努めるとともに、公開などを通じて伊能忠敬の偉業に触れていただければと考えています。

才を發揮する一方、村役人として村政にも尽くしました。隠居後、50歳で江戸に出て高橋至時に師事し、西洋天文学や暦学を学びました。55歳の寛政12年(1800)から測量を開始し、文化13年(1816)まで10次にわたって全国を測量しました。地図は忠敬の没後、文政4年(1821)に完成し、いわゆる「大日本沿海輿地全図」などが幕府へ上呈されました。

伊能忠敬記念館 ☎(54)11118